

Stanford 大学留学記

—1995 年度日本磁気共鳴医学会国際交流賞を受賞して—

榎本京子

埼玉医科大学放射線医学教室

1995 年度日本磁気共鳴医学会国際交流賞の援助により 1996 年 9 月より 1997 年 6 月まで、アメリカ合衆国、サンフランシスコ近郊にあるスタンフォード大学医学部神経放射線科に留学させて頂きました。放射線科は診断、治療、核医学を合わせて 70~80 名の医師が常勤であり、脳神経、胸部、腹部、小児、骨等に細分化して勤務しており、それぞれ別個の読影室で読影する体制でした。(Cardiovascular Center は世界的に有名であり、ここに勤務する放射線科医は含んでいません。) 神経放射線部門においては intervention も含めて professor 1, assistant professor 3, fellow 5 名が常勤であり、これに resident が数名 1 か月交替でローテーション体制をとっていました。

臨床で使用する MR 装置は 3 台で、すべて 1.5 Tesla であり、外来患者用、入院患者用、臨床研究用と分けていました。検査時間を十分(1 例に最低 30 分)にとり、午前 7 時から午後 10 時まで土曜、日曜も休むことなく検査が施行されていました。神経放射線科領域では頭部単純写真と CT scan はレジデントが、MRI はフェローが予め読影し、その後上の医師と検討する体制でした。機械 1 台につき医師 1 人が担当し、検査室へは造影剤の注射以外に行くことは少なく、比較的十分な読影、検討時間を持っているように感じました。大病院に隣接して MRI・MRS センターがあり、ここには 30~40 名のスタッフが勤務していますが、medi-

cal doctor は 1 名もおりません。Ph. D が中心となり、MRI のパルス系列、diffusion sequence, functional sequence, spectroscopy 等の研究、開発が行われていました。それぞれに数人の専門スタッフが配置され、開発された使用可能なパルス系列は MRI・MRS センターにある臨床研究用装置で施行したり、その後はオン・ラインで臨床装置に導入する方法をとっていました。そのため、研究サイドと放射線科診断サイド、さらに関連臨床各科との連絡は密で週 1 回、月 1 回と多数のカンファレンスがありました。この他にも週 1 回のペースで他施設より講師を招き、診断、治療、最先端の話題などの講義がありました。UC サンフランシスコ校と近いため UCSF の諸先生の講義も多く勉強になりました。神経放射線科が主催するカンファレンスだけでも週 2~3 回あります。放射線 body 部門が主催するもの、他の科が主催するものを含めると朝、昼、夕方時間がほぼ満席状態でした。講義はとてもオープン、フランクでクッキーや果物を食べ、コーラを飲みながらというスタイルでしたので、とても楽しめ、また誰でも質問がしやすい雰囲気でした。私が留学中に MRT (MR therapy) の新しい低磁場装置が導入されました。導入後 1 か月程経過したところで、基礎・原理、脳・頭頸部、胸部、腹部の各代表(講師クラスです)がそれぞれ現時点での進行状況、問題点、今後の計画を発表する会が開かれました。機械の導

1998 年 3 月 9 日受理

入，プロジェクトの実行，現状報告と一連の流れが整然としていました。医師の人数が十分でない日本ではなかなかこのようには実施できませんが，お互いの研究の進行をオープンにし，他の研究と比較討論し，関係者に聴いてもらうことは大切なことであると実感しました。

個人的には小児神経放射線が専門の professor Barton Lane から MRI 以外にも学ぶことができました。（大学病院に隣接して Lucil Solter Packerd 小児病院が併設されており，多くの小児症例を見学できました。）また同時期にアジア各地からの留学生が滞在しており，彼らと仲良くなれたことも収穫の一つでした。彼らはそれぞれの国の中でも選ばれた優秀な人材であり，その積極性と熱心さは私が忘れつつあ

るものであり，彼らと比べ，日本の豊かさ，それを当然と感じている自分が恥ずかしくなります。

以上簡単ではありますが，スタンフォード大学留学中に感じたことを記載しました。

サンフランシスコまで車で 40～50 分の距離にあり，気候は温暖でほとんど毎日晴天，治安も良く，大変快適で有意義な留学生生活を過ごすことができました。文末ではありますが，このような機会を与えてくださいましたプリストル・マイヤーズ スクイブ(株)および日本磁気共鳴医学会諸先生方に深謝いたしますとともに，留学経験を今後の日常医療業務，日本磁気共鳴医学会の活動に役立てて行きたいと考えております。